
おわりに

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響を受け、診療所の外来患者さんは減少し続けた。また、三越伊勢丹関連の定期検診を新たに行い、健診者は増えたものの、生活習慣病健診の節目健診が減ったためもあるが、生活習慣病健診者が減少した。

当事業団を取り巻く環境は厳しいものがあつたが、大きな前向きの出来事がいくつかあつた。

一つ目は十年来懸案であつた、診療所の電子カルテの導入である。医療の分野で、デジタルトランスフォーメーション（電子化）が遅れていると言われている。医療や介護はなかなか合理化が出来ない分野であるが、医療の分野でも、DXにより、合理化の波にのまれてしまうであろう。その時に備え、我々は何ができるかを今から考え、準備しておく必要があるだろう。

電子カルテを使用し、有用であつたと感じることは多くない。ただ、心電図を含めた画像を電子カルテで見ることが出来るのは便利である。また、健診とのデータの共有は完全ではないが、進んでいる。今後、より、ユーザーフレンドリーの電子カルテを構築し、私たちが大規模データを利用できるような環境を作っていきたい。

二つ目は新型コロナウイルス感染症の為、日本橋三越本店三越劇場で行うことが出来なかつた健康セミナーを3年ぶりに開催した。少しずつ感染症による行動制限が解けていったが、企画をしたときは、感染症が蔓延するときには、すぐYouTubeに変更する、との背水の陣であつた。幸い、11月には全国的なパンデミックが起らず、無事に健康セミナーを遂行できた。講演の内容は、新型コロナウイルス感染症の後遺症であつたためか、参加者を制限して例年の半分の参加者であつたが、後遺症の心配した参加者からの質問が20件を上回つた。

新型コロナウイルス感染症禍であっても、公益財団法人にとって、重要な責務としての研究活動や啓蒙活動は続けていかなければならない。学会活動はもとより、英文論文、和文論文作成を行った。件数は例年並みであつた。医学研究助成、海外留学渡航費助成のオンライン申請はすでに令和3年度から行っていたが、審査は紙ベースであつたものを今年度からオンライン化した。

今年度の機器購入は医療の精度を上げるため、乳がん検診必須検査項目のマンモグラフィ、動脈硬化診断で用いる、血圧脈波速度測定機器、そして、電子カルテを購入した。

来年度からマイナンバーカードによるオンライン資格確認を行う予定である。オンライン診療は時期を見て施行すべきことであろう。

今年度を振り返り、診療、健診、放射線、検査室、事務局職員一人一人の一年間の活動に感謝をしたい。

(水野杏一 記)